

2019年度 法学部 FD ミーティング 報告書

1. 日 時 2019年6月19日(水)
午後3時25分～午後5時00分

2. 場 所 法学部大会議室(2号館13階)

3. 出席者 27名
(出席者詳細は別紙)

4. 内 容

1. 法学部教育の更なる充実に向けて

照沼教授より、資料1に基づき、話題提供があった。

- ・特に導入教育が学年進行に伴う法学の理解に少なからぬ影響を与えることから、「導入演習」の授業内容の標準化や、延いては共通テキストの作成も一案である。
- ・法学部科目は受講者数が多いが、期末試験の一発評価は避けて、学期の途中で中間試験等を実施し、学生へのフィードバックが重要である。模範解答の提示や、何名かの解答を例示することで、法律文書の書き方の向上につながる。
- ・「導入演習」は、自己点検評価を契機に作り出された科目である。
- ・プレゼンや毎回全員に当てるなど、授業参加を重視した授業運営を行なっている。
- ・全学共通科目として、今後ライティングとデータサイエンスは必修化にしたいという大学の方針がある。

2. クォーター科目導入に関する今後の学部の対応について

- ・同一Q内に2回授業を設定したので、留学に行っていた学生にはプラスになるが、それ以外の学生にはあまり向かないかも知れないので、例年より受講者が減った。
- ・中間テストを実施しているなので、到達度の計り方が短期間になり、より学生自身の効果測定に寄与しているのではないか。
- ・学問の体系上、単純にQごとにぶつ切りにできない。

3. 100分授業に対する工夫や課題について

- ・あまり大きな変化は感じない。
- ・早めに授業を終えて質問時間に充てたところ、例年より多くの学生が熱心に質問するようになった。休み時間が短いため、質問時間を取ると、余裕をもって質問できるのではないか。

・授業の途中で休憩を挟んでいるが、その間に質問に來たり、学生同士で議論したりすることで、理解が深まるという効果があった。

以 上